

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

※北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究で実施

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

3月16日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生は確認されませんでした（表1）。また、試験籠に設置した付着板にもザラボヤは確認されませんでした。一方で、試験籠にザラボヤ2個体（平均全長42.4mm）の付着を確認しました。昨年同期の試験籠への付着数は97個体であり、今年のザラボヤ付着数は非常に少ないと言えます（図1）。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 【℃】	クロロフィル 【μg/L】	ザラボヤ		ユウレイボヤ		その他のホヤ		ヒトデ		フジツボ	
				個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ
かみ	0~10m	5.5~5.6	1.0~1.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10~20m	5.5	1.2~1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20~30m	5.4~5.5	1.2~1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なか	0~10m	5.5	1.2~2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10~20m	5.3~5.5	1.0~6.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20~30m	5.3	1.0~8.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
しも	0~10m	5.5	1.0~1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10~20m	5.5	1.0~1.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20~30m	5.4~5.5	1.0~1.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

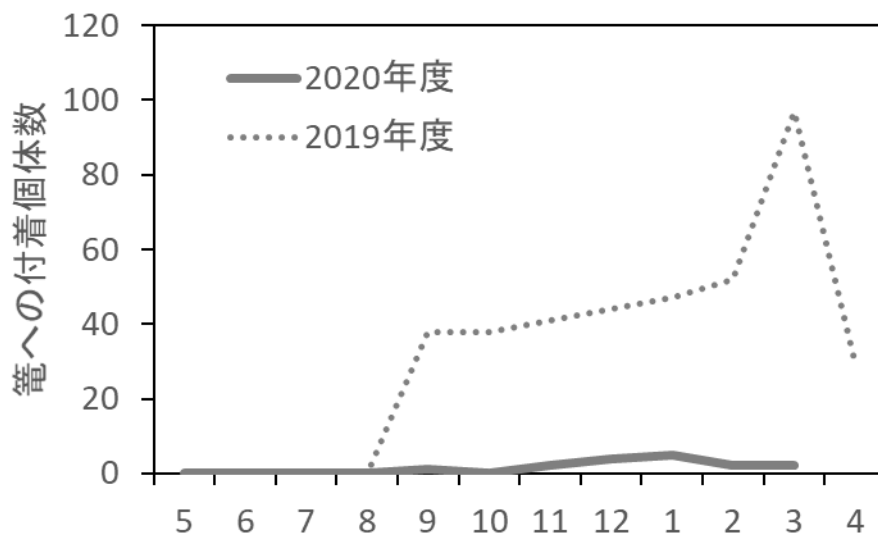


図1 試験籠へのザラボヤの付着数の月別推移。
破線は昨年度の付着個体数を示す。

【参考資料】

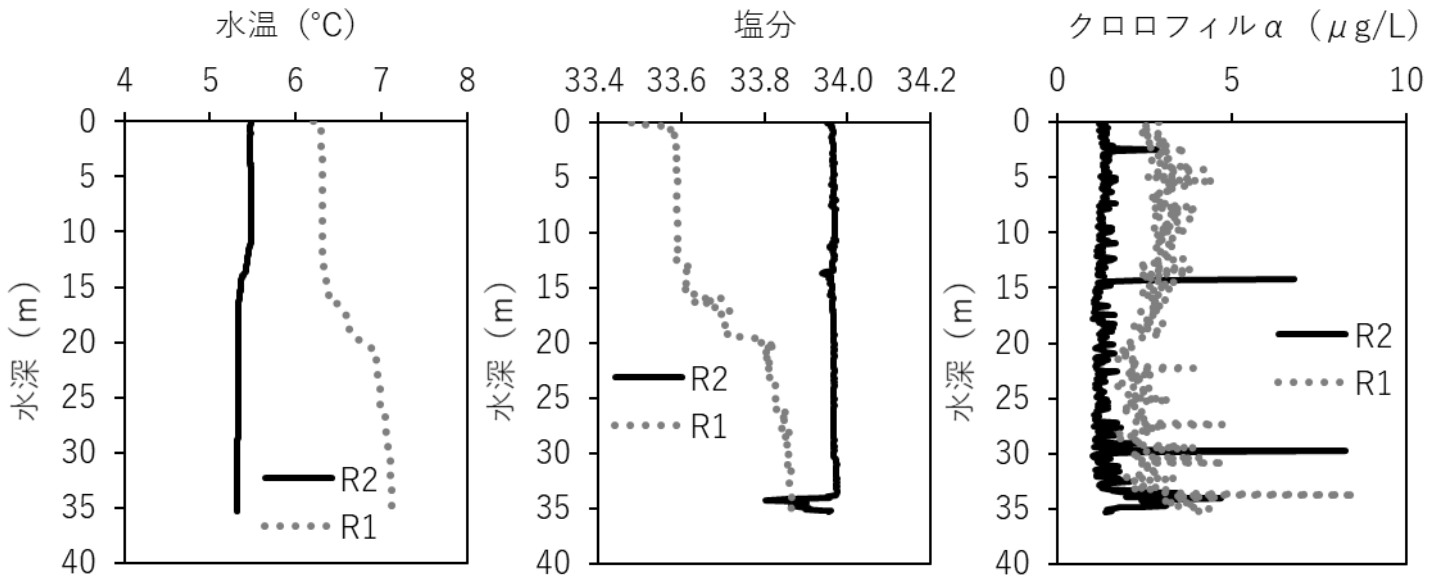


図2：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布。破線は前年同期の値を示す。

ホタテガイ施設周辺の海洋環境を調査しました（図2）。水温・塩分の躍層は確認されず、全層にわたって前年同期に比べて低水温、高塩分の値を示しています。また、ホタテガイの餌となるクロロフィルは前年同期と比べて、ほぼ全層にわたって低い値を示しています。

©ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します（次回調査：4月中旬に実施予定）。

※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd000002m9a.html>